

# 小学校外国語活動を生かした指導

(その3)

## ～ 小学校で慣れ親しんだ教材を取り入れる 文法指導で生かす ～

小学校外国語活動を生かした指導例として、「**小学校で慣れ親しんだ教材(Hi, friends!)**を指導に取り入れる」例を紹介します。文法指導での活用を考えました。

文法指導に関しては、以前に、言語活動と一体的に行う指導例を下記(※注1)のとおりに示しました。この①②の文法指導導入部分で、Hi, friends! にある教材を取り入れてみました。

### (※注1) 言語活動と一体的に行う文法指導の一例

学習内容	留意点等
①オーラルイントロダクション (英語で)	まとまった英文(新出文法事項を含んだ)を生徒に聞かせる。新出文法事項を既習事項と関連付け、強調しながら、自然に繰り返し提示することがポイント。
②生徒とのインタラクション (英語で)	①から自然な流れで、生徒とのやりとりに移行する。新出文法事項が含まれるので、生徒の応答は、不完全なことが多い。教師が正しく言い換え、全体に示しながら、応答を繰り返すことで、未習事項でも正しく答える生徒も見られるようになる。(①②が同時に進むケースもあります。)
③確認(説明)	自然な流れを崩さずに、対話の内容等について簡単に確認(説明)する。生徒の「気づき」を確認しながら進める。①②がうまくいくほど、この時間はかからずに済む。
④ドリル活動 (英語で)	パターンプラクティスなど機械的な定着のためにドリル活動を行う。全体、個で言わせるなど飽きのこないようにテンポよく行う。
⑤コミュニケーション活動 (英語で)	文法事項の「機能」や「場面」を考え、意味のやりとりのあるコミュニケーション活動を行う。生徒自身のことを表現できる内容を含めるようにする。
⑥まとめ	⑤の活動についてコメントする。よい表現等を取り上げるなどして、既習の文構造などと比較しながら文法事項を整理し、理解を深める活動を行う。

この部分で、小学校外国語活動で慣れ親しんだ教材(Hi, friends!)を取り入れる。

## Hi, friends! 2 を取り入れた指導例

※ Hi, friends! の頁は、web 上では、著作権上公開できません。他のイラスト等で再現しているところもあります。ご了承ください。

### New Crown English Series 1 LESSON 7 Wheelchair Basketball

#### 新出表現 can の導入部分での活用例

○ 活用するのは、Hi, friends! 2 Lesson 3 I can swim. p.10~13

#### ① オーラルイントロダクション

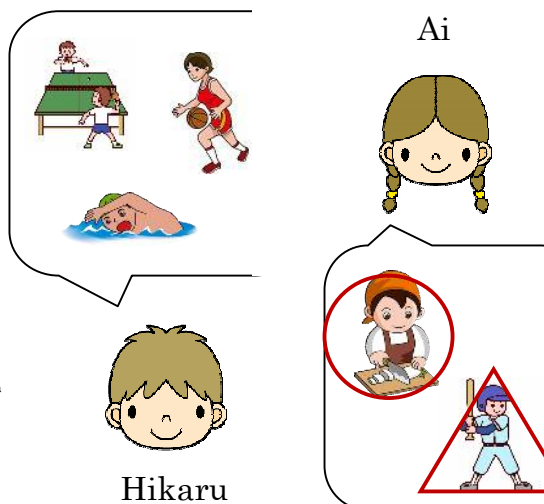
(Hi, friends! 2 p.11 Let's Listen)

- ・ Ai についての英文を聞かせる。(p. 11)
- ・ その英文にそって、Ai の吹き出し内のイラスト (黒板等に表示) に、教師が○、△をつける。何に○、△をつけるのかは想像させる。

(生徒の実態に応じ、2回程度)

※ 何に○、△をつけたのかは、(※注1)の指導例③の確認(説明)時に行う。

- ・ Ai 以外の Hikaru 他 4 名について、英文を聞かせ、吹き出しの絵に○、△をつけさせる。



#### ② 生徒とのインタラクション

- ・ 英語での応答を通して、Let's Listen の解答をする。

※ can の使い方等に、生徒自身が気付くような英語での応答ができるとよい。

例) T: Can Hikaru swim?

Ss: Yes.

T: That's right. He can swim. How about you, S1? Can you swim?

S1: Yes, I can.

T: S1 can swim too. . . .

この活動後は、※注1 の流れで、③~⑥の活動をする。

その他、小学校では、can について、チャンツ、ポインティングゲーム、「Who am I? クイズ」やインタビュー活動等をとおして慣れ親しみます。最後には、「できること」「できないこと」について自己紹介する活動を行うことも多いようです。それらの活動をとおし、I can swim. Can you swim? Yes, I can. などについて、理屈抜きで、ひとかたまりの文や語句 (もちろん音声) として認識しています。

生徒の小学校外国語活動での学習した教材を、そのまま導入で生かすことで、スムーズに新出事項の導入につながると思います。